

外国人介護福祉士 マリシェルさん

新設特養の副施設長に就任 大阪介護福祉士会理事にも

今年4月にオープンした特養「ボプラ上新庄」(大阪市)の副施設長として働く、フィリピン人介護福祉士のマリシェル・オルカさんは、フィリピンから入国したEPA(経済連携協定)第1号で、そのなかで初の介護福祉士試験合格者になった。今年6月には、大阪介護福祉士会理事に選出されている。

介護事業のほかに、こうした外国人介護士などを養成する「ボプラ介護福祉学校」を今年4月に開校、38人の一期生が誕生し介護福祉士をめざしている。池田市の住宅地にあった小学校旧校舎を活用する。

マリシェルさんは、同法人

の外国人介護士の第1号。早

くに父親を亡くしたが、大学

で理学療法士の資格を取得。

2003年から3年間、理事

長が懇意の日本法人が運営す

る日本退職者や企業の駐在

員などを対象にしたリゾート

世界中に広がっているフィ

リピン人労働者は、SNSで

お互いの就労状況などを共有

している。よい環境や条件で

働いているという認識がモチ

ベーションの維持に欠かせな

いと話す。

大阪介護福祉士会には、13

年に入会した。淺野幸子会長

との出会いがあった。日本で

実際、全室ユニット型の「ボ

プラ特養上新庄」には、スタッ

フ全員が外国人介護士で構成するユニットを、モデルで展開している。

マリシェルさんはこのたび

ために、これから増える外

国人介護福祉士のためにも、

専門職団体に入り、研修に

来日10年を経て、日本の永住資格も得た。これからも外国人介護福祉のリーダーとして

日本の高齢者の思いを受け止め、介護に携わりたいと話

なった。

日本語は堪能にな

り、利用者からも日本スタッフからも信頼される存在だ。笑顔で交わす挨拶もすがすがしく、ホスピタリティの高さをうかがわせている。

12年、介護福祉士の国家試験に一発合格。EPAで来日したフィリピン人の一番乗りだった。「合格するためには、資格を取りたいというモチベーションの維持が第一です」とマリシェルさん。

世界中に広がっているフィリピン人労働者は、SNSでお互いの就労状況などを共有している。よい環境や条件で働いているという認識がモチベーションの維持に欠かせないと言ふ。



特養「ボプラ上新庄」の外国人介護士さん



マリシェル
オルカさん

マリシェルさんが働く特養

池田さつき会

卒業後、いったん帰国、日

本と

フィリピンのEPA協定が成立したことで再来日し、

本

ボプラ上新庄では、全室ユ

ドネシア、アラブ首長国連邦の7カ国の介護士さんたちだ。

池田さつき会で働くように

だ。

マリシェルさんが働く特養

池田さつき会

卒業後、いったん帰国、日

本と

ボプラ上新庄

は、

全室ユ

ドネシア、アラブ首長国連邦

の7カ国の介護士さんたち

だ。